

農村医学の動向

会 長 豊 田 文 一

約20年前、私はあるところの講演でこんなことを述べた記憶がある。「いくら安くても働きたいという人間がいるところ、それは農村である。農村は失業者のふきだまりであり、日本のシワが農村によせられている。農村のシワをのばさなければ、日本国民のシワをのばすことができない。国民の半数を占める農民の不幸、苦しみを除かなければ、国民全体の不幸も苦しきも解決することができない。」

当時私どもは農夫症を中心とする農村保健の研究に挺身していた頃のいつわりのない感想であった。たしかに貧しい農村という言葉があてはまるようにそれは経済的にも、心理的にも、直接農村環境に接した場合、私どもの頭の中に描きだされる農村の姿であった。

しかし20年後の昨今はどうであろうか。経済成長と社会環境の変貌は、かつての農村は私どもの視野の外に、その姿を消してゆこうとしている。

ある資料によれば、その地域そのものは農村とはいふものの、農業自体を家計の柱にしているものが2割に過ぎない地域もあり、一般的に言ってこれに近いものも多いと思われる。

ことに富山県のような平坦単作農業地帯ではその感が深い。従って経済的観念からみた農村という概念に大きな変換をさせねばならない時期に到達したように考える。

試みに昭和26年より33年に至る間の一般勤労者と農家との収入と消費の比較をみても、その間に甚しい較差が示されている。(第1図)

しかしその10年後はこの較差が甚しく接近し、ことに北陸地方においては逆転していることが示されている。(第1表、第2表、第3表)

それで私どもは農村の地域保健の問題を顧りみると、農村の疾病はその経済的貧困が基盤であるという観念から分析を試みてきた。

しかも農夫症についても、それを基本としての結論がでてきたわけである。しかしこのような社

会環境の変貌はもはやそれのみでは解決できない問題点を投げかけている。

私も微力ながら、農村保健の問題にとりくみ、直接農村地帯に入りこむ機会が少なくない。そこで受ける印象はやはり農村には農村なりの疾患群、あるいは健康障害が存在することである。時の移り変わりがあると同様に、その様相にも移り変わりがあることは否めないが、農村の環境因子というものは確かに存在すると考えられる。

最近もある農村へ検診のため出向いたが、一般的にいえることは健康保持に対する観念の稀薄さである。一夜地域の人々と健康についての座談会をもった。その席で話し合った結論を分析すればやはり自分の健康を保持するためには、自分の力で努力せねばならないという考え方に欠けているように思われた。

もともと他力本願という宗教的観念に培われた北陸地方であるかも知れないが、医療依存の観念が強く現われている。健康破綻の裏にひそむものを、自らの手で掘りおこす観念が薄い。この点は私ども農村保健に取りくむものにとって、特に眼を注がねばならないところであり、地域住民の健康教育が如何に重要であるかがわかる。

ただ一言いいたいのは、私自身永い間農村に入りこみ、農民の肌をふれてその保健を考えてきた。ところがこの農村医学に最近二つの流れが起ってきている。人と人とのいわゆる Human-relation を基盤とした生態学的の追及と近代科学の進展に伴う理工化学などを基盤とする人間工学を主体とするものとのである。その目ざすところはもちろん社会福祉にしぼられているが、両者ともに密接な関連性があり、それぞれの分野を通じて貢献さるべきであろう。何れにしても農村保健、農民の健康を守る立場から、人間不在の医学であってはならないし、このことこそ農村医学の誇りである。

幸いに昨年、富山県農村医学研究会が発足し、

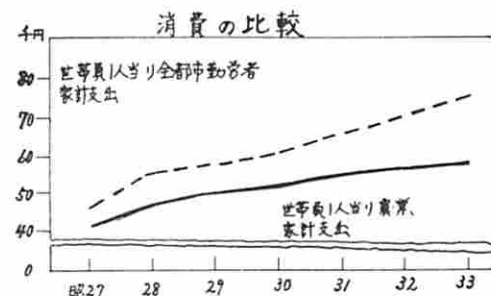
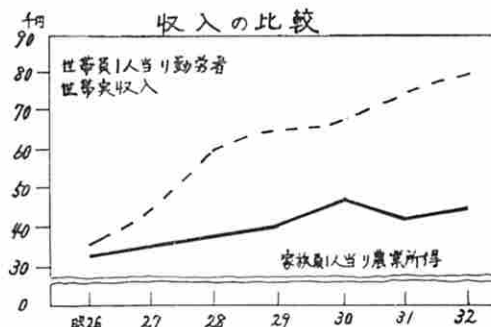
有能な同志が、それぞれの分野で研鑽を積まれていることはまことに喜ばしいことである。

その成果はやがて健康な農村作りに進展してゆくことは明かであり、私はその日の近からんことを期待するものである。

第1表 農家経済(I)

農家総収入			農家常住家族1人当り所得		
全国平均	千円	順位	全国平均	千円	順位
	1446.6			201.5	
富山	1535.3	10	富山	245.8	5
福井	1521.3	11	石川	238.3	7
石川	1419.3	26	福井	226.3	11
神奈川	2114.5	1	大阪	257.2	1
北海道	732.7	46	鹿児島	134.6	46

昭和42年



第2表 農家経済(II)

エンゲル系数			被服費			住居費		
県別	%	順位	県別	千円	順位	県別	千円	順位
全国	33.1		全国	86.6		全国	146.1	
富山	31.1	35	富山	105.5	5	富山	190.3	3
石川	30.9	39	石川	104.9	6	石川	186.3	4
福井	30.6	41	福井	84.7	28	福井	177.1	8
秋田	37.7	1	大阪	133.5	1	大阪	227.6	1
東京	26.8	46	鹿児島	49.7	46	宮崎	94.3	46

昭和42年

第3表 農家経済(III)

保健・衛生費			1人当り県民分配所得			農家常住家族1人当り所得		
県別	千円	順位	県別	千円	順位	県別	千円	順位
全国	37.2		全国	249.1		全国	201.5	
石川	38.6	16	富山	231.0	10	富山	245.8	5
富山	38.0	18	石川	223.3	13	石川	238.3	7
福井	36.3	25	福井	205.3	27	福井	226.3	12
大阪	59.9	1	東京	418.4	1	大阪	257.2	1
鹿児島	24.5	46	鹿児島	144.7	46	鹿児島	134.6	46

昭和42年